

朗読台本

10月の
プレゼント

『かぼちゃの独り言』

あたしは、かぼちゃ。

畑で、静かに眠っていた。

土の匂いを吸い込みながら、
ただ丸く、大きくなることが仕事だった。

それなのに――

ある日突然、連れて行かれた。

どつどつした手に抱えられ、

台の上に置かれ、

ナイフで顔をくり抜かれる。

笑え、と？

あたしは笑いたくなんかない。

中身をほじくられて、

ろろそくを押し込まれて。

ひとの笑顔のために、

どうしてここまでされなければならないのか。

けれど――

闇のなかで灯ったとき、

あたしの顔を見て、

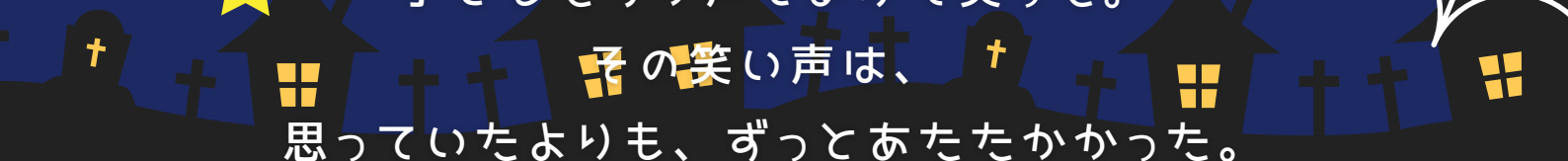
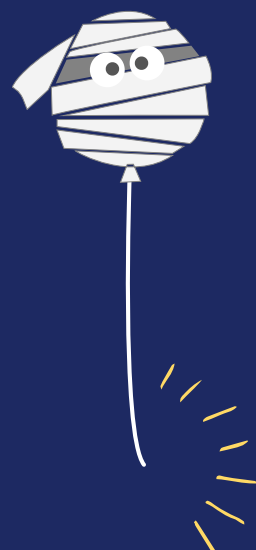
子どもたちが声をあげて笑った。

その笑い声は、

思っていたよりも、ずっとあたたかかった。

もしかすると、

これがあたしの役目なのかもしれない。





声トレポイント

◆前半（畑〜くり抜きまで）
低めで淡々、ぼやき調。

◆中盤（怒り）
声を強め、テンポを速める。

◆後半（灯り〜子どもたち）
一呼吸おいて、静かに、
しみじみ語る。



ワークシート

Q1. 朗読してみて「声のトーンが一番難しかった部分」
はどこでしたか？

（
）

Q2. この台本を読んで、自分が「声を与えてみたい」と
思ったモノは何ですか？

（例：靴下、スマホ、鏡餅）

（
）

Q3. そのモノの「独り言」を一行だけ考えてみましょ
う。

（例：スマホ「今日も充電切れるまで使われるのか…」）

（
）